# 新·内科専門医制度

# 研修カリキュラム(案)

(2014年12月8日更新)

## 目次

『内科研修カリキュラ	ム』について・・・1
総合内科 I (一般) · · · 4	呼吸器 •••30
総合内科Ⅱ(高齢者)・・・9	血液 •••34
総合内科Ⅲ(腫瘍)・・・11	神経 •••36
消化器 · · · 12	アレルギー・・・40
循環器 ・・・17	膠原病及び類縁疾患
内分泌 ・・・21	• • • 42
代謝 • • • 24	感染症 ・・・44
腎臓 • • • 27	救急 •••46

### 新・内科専門医制度 『内科研修カリキュラム』について

研修カリキュラムは新・内科専門医(以下,内科専門医)が修得する内科全分野の研修内容を網羅したものとなっている。今日,医学・医療が指数関数的に進展し、多様化・専門化する中で、全ての研修内容と項目の修得を、一人の内科医が完全に達成することは困難である。しかし、ここに掲げるカリキュラム内容は、内科医として内科専門医取得後も生涯に亘って研鑽し続けることが期待され、ここに掲げるものである。これから内科を専攻する研修医は勿論のこと、すでに十分なキャリアを持つ内科医にとってもそのキャリアを維持し、更新する指針と考えていただきたい。

新・内科専門医制度(以下,内科専門医制度)においては、この研修カリキュラムの内容を達成するために、実体的な研修状況を踏まえながら、日本内科学会をはじめ、関連する内科系 subspecialty 学会や関連する諸団体と協議を重ねてきた.

1970年,日本内科学会において内科研修カリキュラムが検討されて以来,40年が過ぎた.2014年現在,日本専門医機構が発足し,専門医制度全般が改まる中,『内科研修カリキュラム』は10回目の改訂を迎える.より良い内科医育成のために,今後とも関係各位のご理解とご協力をいただき,質の高い研修体制を構築していきたい.

#### 概要

- ・『内科研修カリキュラム』は「研修カリキュラム 2011」(現行版)をベースとするものの,5年の研修を前提とした内科専門医のカリキュラムとして見直した. なお,5年の研修には初期臨床研修の2年間も含まれている.
- ・『内科研修カリキュラム』は次の領域から構成されている. 『総合内科 I (一般)』,『総合内科 II (高齢者)』,『総合内科 III (腫瘍)』,『消化器』,『循環器』,『内分泌』,『代謝』,『腎臓』,『呼吸器』,『血液』,『神経』,『アレルギー』,『膠原病および類縁疾患』,『感染症』,『救急』

また現在、医療への高まる社会的要請や医学の進展、多様化などに伴い、今後もカリキュラムの領域や項目については、定期的に見直しを行なう.

・各領域のカリキュラムは研修項目の一覧表と、その項目を説明する本文によ

って構成されている.

項目一覧表の各項目には達成度の指標となる到達レベルが A, B, C というグレードとして設けられている. なお, 各項目の達成度をより明確にするため, 到達レベルのグレードは「知識」,「技術・技能」,「症例」として分類されている.

#### 【到達レベルについて】

1)知識に関する到達レベル

A: 病態の理解と合わせて十分に深く知っている.

B: 概念を理解し、意味を説明できる.

2)技術・技能に関する到達レベル

A: 複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる.

B: 経験は少数例だが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、また は判定できる.

C: 経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる.

3) 症例に関する到達レベル

A: 主治医(主たる担当医) として自ら経験した.

B: 間接的に経験している(実症例をチームとして経験した,または症例検 討会を通して経験した).

C: レクチャー, セミナー, 学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した.

- ・研修カリキュラムは研修の根幹をなす内容であるが、実際の研修はこのカリキュラムをもとにした各施設(施設群)において実施内科研修プログラムにて行われる。
- ・このカリキュラムを単なる理想,目標とすることなく,実際の研修時に履修内容の確認や評価を専攻医,指導医が共有して行えるよう研修手帳(Web版)を別途設ける.

### 到達レベルについて

#### 1)知識に関する到達レベル

A: 病態の理解と合わせて十分に深く知っている。

B: 概念を理解し、意味を説明できる。

#### 2)技術・技能に関する到達レベル

A: 複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる。

B: 経験は少数例だが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、または判定できる。

C: 経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる。

#### 3)症例に関する到達レベル

A: 主治医(主たる担当医)として自ら経験した。

B: 間接的に経験している(実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した)。

C: レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した。

総合内科 I (一般)	知識	技術·技能	症例
Ⅰ. 医の倫理、患者の人権、患者-医師関係			
1. 医の倫理と生命倫理	Α	Α	
2. 患者の権利	Α	Α	
3. 患者医師関係	Α	Α	
Ⅱ. 社会と医療			
1. 社会、環境と健康	Α		
2. 保健、医療、福祉と介護の制度	Α		
3. 臨床研究と医療	Α		
4. 診療情報と諸証明書			
1)診療録記載	Α	Α	
2)紹介状作成	Α	Α	
3) 特定疾患個人調査書(診断書)	Α	В	
4) 介護保険主治医意見書	Α	Α	
5) 身体障害者手帳交付診断書	В	В	
6) 在宅医療に関する指導・意見書(訪問看護指示書など)	Α	Α	
Ⅲ. 医療における安全性確保			
1. 安全性の確保	Α	Α	
2. 医療上の事故等への対処と予防	Α	Α	
3. 医療従事者の健康と安全	Α	Α	
Ⅳ. プロフェッショナリズムと生涯学習			
1. プロフェッションを担う一員(プロフェッショナル)としての医師の役割	А	Α	
2. 医のプロフェッショナリズム	Α	Α	
3. 生涯学習	Α	Α	
V. 基本的診療技能			
1. 医療面接	А	Α	
2. 身体診察	Α	Α	
3. 臨床推論	Α	Α	
5. 臨床検査総論	Α	Α	
6. 臨床検査各論			
1) 一般尿検査	Α	Α	
2) 便検査	Α	Α	
3) 血算·白血球分画	Α	Α	
4) 血液型判定·交差適合試験	Α	Α	
5) 血液生化学的検査	Α	Α	
6) 血液免疫血清学的検査	Α	Α	
7) 動脈血ガス分析	Α	Α	
8) 細菌学的•薬剤感受性検査	Α	Α	
9) 細胞診•病理組織検査	Α	Α	
10) 心電図(12誘導)	Α	Α	
7. 画像検査	1		
1) X線(造影、CT検査を含む) 各領域の項参照	A	В	
2) 超音波画像			
① 超音波検査一般	A	Α	
② 循環器超音波検査 循環器領域の項参照	A	В	
③ 腹部超音波検査 消化器領域の項参照	A	Α	
3) 磁気共鳴画像〈MRI〉	Α	В	

総合内科 I (一般)	知識	技術·技能	症例
Ⅵ. 主要症候	•		
全身・健康問題			
1. 全身倦怠感	Α	Α	
2. 発熱	A	A	
- 75kk	A	A	
	A	A	
5. 多汗	A	Α	
	A	Α	
7. 多飲•多尿	A	Α	
8. やせ・るいそう	A	Α	
9. 高身長	В	В	
10. 低身長	A	Α	
	A	Α	
神経・精神系			
12. 意識障害	A	Α	
12. 息越障害 13. 失神	A	A	
13. 大仲 14. 高次脳機能障害 (記憶障害・認知障害を含む)	A	A	
14. 同久個機能降音(記憶降音・読み降音を含む) 15. 脳死	A	A	
16. めまい	A	A	
17. 複視	A	A	
18. 眼瞼下垂・瞳孔異常	A	A	
10. 収成 17至7度11英市 19. けいれん	A	A	
20. 嚥下困難・障害	A	A	
21. 頭痛	A	A	
21. 頭彌 22. 言語障害(失語・構音障害を含む)	A	A	
23. 運動麻痺·筋力低下	A	A	
24. 運動失調	A	A	
25. 振戦·不随意運動	A	A	
26. 歩行障害·姿勢異常	A	A	
27. 感覚障害・しびれ	A	A	
28. 睡眠障害	A	A	
29. 幻覚·妄想	A	A	
20. 如兄 安心 30. 抑うつ	A	A	
30. fg/) 75 31. 不安·恐怖	A	A	
頭頸部		^	
32. 顔貌	A	Α	
33. 視力障害・低下	A	Α	
34. 視野障害	A	Α	
35.目の充血	A	Α	
36. 角膜輪	A	Α	
37. 難聴	A	Α	
38. 耳鳴	A	Α	
39. 鼻閉•鼻汁	A	Α	
40. 咽頭痛	A	Α	
41. 口内乾燥	A	Α	
42. 嗄声	A	Α	
43. 喉頭浮腫	A	Α	
44. 甲状腺腫	A	Α	

総合内科 I (一般)	知識	技術・技能	症例
心・血管系			
45. 高血圧	Α	Α	
46. 低血圧	A	Α	
47. ショック	A	Α	
48. 心肺停止	A	Α	
49. チアノーゼ	A	Α	
50. 起坐呼吸	A	Α	
51. 動悸	A	Α	
52. 脈拍異常	А	Α	
53. 右心不全微候	А	Α	
54. 左心不全微候	A	Α	
肺・胸部			
	A	Α	
56. 異常呼吸パターン( Kussumal 呼吸を含む)	A	Α	
57. 喘鳴	A	Α	
58. 誤嚥	A	Α	
59. 咳嗽•喀痰	A	Α	
60. 喀血	A	Α	
61. 胸痛	A	Α	
62. 乳汁分泌	A	Α	
63. 女性化乳房	A	Α	
消化器系			
64. 黄疸	A	Α	
65. 食思(欲)不振	A	Α	
66. 悪心, 嘔吐	A	Α	
67. おくび・げっぷ	A	Α	
68. 胸やけ	A	Α	
69. 吐血, 下血	A	Α	
70. 腹痛	A	Α	
71. 腹部膨満	A	Α	
72. 腹部腫瘤	A	Α	
73. 腹水	A	Α	
74. 肝·脾腫	A	Α	
75. 便秘, 下痢	Α	Α	
腎∙泌尿生殖器			
76. 乏尿·尿閉	A	Α	
77. 排尿障害(尿失禁・排尿困難)	A	A	
78. 血尿	A	A	
79. 蛋白尿	A	A	
80. 混濁尿	A	A	
81. 続発性無月経	A	A	
82. インポテンス	A	A	

総合内科 I (一般)	知識	技術·技能	症例
筋骨格系•四肢			
83. 背部痛(腎疝痛を含む)	Α	Α	
84. 腰痛	Α	Α	
85. 関節痛・関節腫脹	Α	Α	
86. 痛風結節	Α	Α	
87. ぱち指	Α	Α	
88. テタニー 皮膚	A	A	
89. 皮疹·発疹	A	Α	
90. 瘙痒	A	A	
91. 皮膚乾燥	A	A	
92. 潮紅	A	Α	
93. 色素沈着	A	Α	
94. 皮下出血・出血傾向	A	A	
95. 多毛	A	Α	
96. 脱毛	A	Α	
97. 皮膚線条	Α	Α	
98. 黄色腫	А	Α	
99. 浮腫・腫脹・血管性浮腫	Α	Α	
Ⅷ. 主要疾患•症候群			
1. 皮膚系	А	Α	
2. 筋骨格系	Α	Α	
3. 生殖器系	А	Α	
4. 眼•視覚系	А	В	
5. 耳鼻·咽喉·口腔系	Α	Α	
6. 精神系	Α	Α	
VIII 治療の基礎			
1. 薬物治療の基本原理	А	Α	
2. 食事と輸液療法	Α	Α	
3. 輸血と移植	Α	В	Α
4. 周術期管理	Α	В	
5. 麻酔	Α	В	
6. リハビリテーション	Α	Α	
7. 介護と在宅医療(主治医意見書の記載や在宅医療機関との連携を念頭に)	Α	Α	Α
8. 漢方医学	Α	В	
IX. 死と終末期ケア			
1. 死(死亡診断を念頭に)	Α	Α	Α
2. 緩和ケア(非がん疾患を含む)	Α	Α	Α
3. 終末期ケア	A	Α	Α
X. チーム医療と地域医療			
1. チーム医療	A	Α	
2. 地域医療	A	Α	
XI. 生活習慣			
1. 栄養・食生活	A	Α	
2. 運動	Α	Α	
3. 休養・心の健康	A	Α	
4. 喫煙(禁煙指導を念頭に)	Α	Α	Α

総合内科 I (一般)	知識	技術·技能	症例
5. 飲酒	Α	Α	
6. 疫学と予防医学	Α	В	
XII. 心理・社会的側面についての配慮			
1. 患者の心理・社会的側面	Α	Α	
2. 家族機能	Α	Α	
3. 行動変容	Α	Α	
4. 休養・心の健康	Α	Α	
XIII. 災害医療			
1. 災害医療	Α	Α	

総合内科Ⅱ(高齢者) (原則として65歳以上で、かつ加齢に伴う変化が強く関与した病態について)	知識	技術·技能	症例
I. 知識			
1 加齢に伴う身体的、心理学的、社会的変化			
1) 循環、呼吸、腎、代謝、内分泌、感覚器、運動器の変化	Α		
2) 認知機能の低下、高齢者が陥りやすい心理的問題点、不眠	Α		
3) 介護保険、地域医療システム	Α		
4) 高齢化の現状と高齢化が社会に及ぼす影響	Α		
2 病態、治療に関する事項			
1) 高齢者の疾患の特徴	Α		
2) 老年症候群	Α		
3) 虚弱、サルコペニア	Α		
4) 加齢にともなう検査値の変化	Α		
5) 高齢者薬物治療の留意点			
① 高齢者に使用するのが好ましくない薬物	Α		
② POLYPHARMACY	Α		Α
3 高齢者の腎機能推定法	A		
6) 高齢者の医療、介護保険、地域医療システム	A		
7) 高齢者医療の倫理	A		
Ⅱ.専門的身体診察	, ,	1	
1 高齢者総合機能評価	Α	Α	
Ⅲ. 専門的検査			
1) HDS-R MMSE	Α	Α	
2) 高齢者うつスケール	Α	В	
2 簡易嚥下機能検査	Α	В	
3 脳、胸腹部、椎骨、大腿骨、骨盤のCTおよびMR画像の読影	Α		
4 骨塩量	Α		
Ⅳ. 治療			
1 生活習慣指導			
1) 栄養指導	Α		
2) 転倒防止	Α		
3) 誤嚥防止	Α		
4) 運動指導	Α		
2 薬物療法			
1) 多剤を使用している場合に、優先順位をつけて投薬数をへらす	Α		
2) 高齢者に使用することが好ましくない薬剤を中止する	A		
3 介護保険	<u> </u>		
1) 介護保険主治医保険書	Α		
2) 病診連携	A		
4 認知高齢者の介護者のケア	A		
5 退院支援	A		
6 在宅医療	A		
7 高齢者の包括医療の組み立て	A		
8 臓器別専門医との連携	A		
9 老年疾患の予防	A		
10 高齢者のターミナルケア	A		
	A		

<b>総合内科 II (高齢者)</b> (原則として65歳以上で、かつ加齢に伴う変化が強く関与した病態について)	知識	技術·技能	症例
Ⅴ. 疾患			
1 認知症を合併症とする慢性疾患			
1) 糖尿病	Α		Α
2) 高血圧	Α		Α
3) その他	Α		В
2 低栄養			
1) エネルギー・タンパク低栄養	Α		Α
2) 脱水、低ナトリウム血症、低カリウム血症	Α		Α
3) 微量元素不足	Α		В
3 嚥下性肺炎	Α		Α
4 転倒ハイリスク患者、骨折、骨粗鬆症			
1) 転倒ハイリスク	Α		Α
2) 転倒骨折後発部位の骨折(Colles骨折、上腕骨近位部、椎体、大腿骨頸部)	Α		Α
3) 骨粗鬆症	Α		Α
5 廃用症候群	Α		Α
6 在宅患者	Α		Α
7 高齢者終末期医療	Α		Α
8 自宅通院ができず、退院調整を必要とした患者	Α		Α

総合内科皿(腫瘍)	知識	技術·技能	症例
I. 知識			
1 腫瘍内科の基礎			
1) がん医療の現状と疫学	Α		
2) 腫瘍(良性・悪性)の定義	Α		
3) 発がんの機序	Α		
Ⅱ.診断			
1 がん診断の基本原則			
1) がん診断のアプローチ・考え方	Α		
2) がんの主要徴候	Α		
3) 診断(病理・病期・画像・遺伝子)	Α		
Ⅲ. 治療			
1 管理・治療の基本			
1) がん治療の基本原則	Α	Α	
2) 抗悪性腫瘍薬の分類・作用機序	Α	В	
3) がん薬物療法(生物学的製剤を含む)意義・目的	Α	В	
4) がん薬物療法の副作用と支持療法	Α	Α	Α
5) チーム医療とリスクマネージメント	Α	Α	
6) 緩和医療	Α	Α	Α
7) 腫瘍随伴症候群	Α	В	В
8) オンコロジーエマージェンシー	Α	В	В
2 各種がんの薬物療法	·	<u> </u>	
1) 骨転移の薬物療法	Α		В

	消化器	知識	技術・技能	症例
Ι.	知識			
1	消化器の解剖と機能			
	1) 消化管	Α		
	2) 肝臓	Α		
	3) 胆道•膵臓	Α		
	4) 腹膜	Α		
2	病態生理			
	1)腹痛	Α		
	2) 消化管粘膜障害	Α		
	3) 便通異常	Α		
	4) 黄疸	Α		
	5) 腹水	Α		
	6) 肝性脳症	Α		
	7) 門脈圧亢進症	Α		
	8) 内臓肥満	Α		
Ι.	専門的身体診察			
1	腹痛・急性腹症	Α	Α	
2	腹膜刺激症状	Α	Α	
3	腹部膨満・腹水	Α	Α	
4	腹部腫瘤	Α	Α	
5	黄疸	Α	Α	
6	門脈圧亢進症	Α	Α	
7	肝性脳症	Α	Α	
Ш.	専門的検査			
1	糞便検査			
	1) 便培養・毒素検出,脂肪染色,α₁アンチトリプシンクリアランス	Α	В	
2	肝機能検査			
	血中アンモニア, 血漿遊離アミノ酸, フィッシャー比〈BCAA/AAA比〉, 血清胆汁酸, プロトロンビ1) ン時間, ヘパプラスチンテスト, 線維化マーカー(ヒアルロン酸, IV型コラーゲン(7S)), 色素排泄試験〈ICG試験〉	Α	А	
3				
	1) 血清・尿アミラーゼ、アミラーゼアイソザイム、血清エラスターゼ-1、血清リパーゼ、トリプシン	Α	Α	
4	肝炎ウイルスマーカー			
	1) A型, B型, C型	Α	Α	
	2) E型, EBウイルス感染症, サイトメガロウイルス感染症	Α	Α	
5	免疫学的検査			
	1) 免疫グロブリン	Α	Α	
	2) 自己抗体	Α	Α	
	3) リンパ球刺激試験	Α	Α	
6	腫瘍マーカー	<u> </u>	1	
	1) 肝細胞癌			
	AFP, PIVKA-II, AFP-L3分画	Α	Α	
	2) その他の消化器癌	l	1	
	CEA, CA19-9, SCC	Α	Α	
7	膵外分泌機能検査	•	, ,	
,	1) BT-PABA <pfd>試験</pfd>	В	С	

消化器	知識	技術·技能	症例
8 消化管感染症の検査		·	
1) 病原微生物の同定	Α	Α	
2) Helicobacter pylori 検出			
① 迅速ウレアーゼ法, <sup>13</sup> C-尿素呼気試験,血中抗 <i>H. pylori</i> IgG抗体検査, 便中 <i>H.pylori</i> 抗原 測定, 組織鏡検法	В	В	
9 超音波検査法	Α	Α	
10 消化管X線検査			
1) 食道•胃•十二指腸	В	В	
2) 大腸(注腸透視)	В	В	
11 消化器内視鏡検査			
1) 食道•胃•十二指腸<上部消化管内視鏡検査>	Α	В	
2) 小腸(バル―ン内視鏡, カプセル内視鏡)	В	С	
3) 大腸内視鏡検査(下部消化管内視鏡、カプセル内視鏡)	В	С	
4) 内視鏡的逆行性胆管膵管造影〈ERCP〉	В	С	
12 画像診断			
1) CT	Α	В	
2) 磁気共鳴画像〈MRI〉,磁気共鳴胆管膵管撮影〈MRCP〉	Α	С	
3) ポジトロンエミッション断層撮影〈PET〉	В	С	
4) 腹部血管造影	В	С	
13 肝生検	В	С	
Ⅳ. 治療			
1 食事・栄養療法,生活指導			
1) 消化管疾患	Α	Α	
2) 肝疾患	Α	Α	
3)胆道疾患	Α	Α	
4) 膵疾患	Α	Α	
5) 生活指導(禁煙指導, 飲酒指導)	Α	Α	
2 基本的治療手技			
1) 胃洗浄	Α	Α	
2) 胃管挿入	Α	Α	
3) イレウス管挿入	В	В	
4) 浣腸, 高圧浣腸	Α	Α	
5) 人工肛門洗浄 〈ストーマケア〉	В	В	
6) 腹腔穿刺と排液	Α	Α	
7) 高カロリー輸液	Α	Α	
8) 経管栄養(成分栄養含む)	Α	В	
3 薬物療法			
1) 消化管			
① 鎮痙・鎮痛薬	Α	Α	
② 鎮吐薬	Α	Α	
	Α	Α	
	Α	Α	
⑤ 健胃消化薬・消化管運動調整薬	Α	Α	
⑥ 消化性潰瘍薬・制酸薬	A	A	
⑦ Helicobacter pylori除菌薬	В	В	
8	В	В	
	В	В	
	В	В	

消化器	知識	技術・技能	症例
2) 肝臓		<u> </u>	
① 肝作用薬(UDCA, グリチルリチン製剤)	Α	Α	
② 肝不全治療薬 (特殊アミノ酸製剤,ラクツロース)	Α	Α	
③ 利尿薬	Α	Α	
④ アルブミン製剤	Α	Α	
⑤ インターフェロン製剤	В	В	
⑥ 経口抗ウイルス薬	В	В	
3) 胆道, 膵臓			
① 利胆薬	Α	Α	
② 胆石溶解薬	В	С	
③ 蛋白分解酵素阻害薬	Α	Α	
<ul><li>④ 抗菌薬</li></ul>	Α	Α	
4 専門的治療法			
1) 消化管			
① 内視鏡的治療手技(粘膜切除術, 粘膜下層剥離術, 光線力学療法〈PDT〉, 拡張術, 止血処置, ステント留置など)	В	С	
② 食道静脈瘤結紮術〈EVL〉·硬化療法〈EIS〉	В	С	
③ 炎症性腸疾患への特殊療法(血球除去療法など)	В	С	
④ 胃瘻造設と管理	В	С	
2)肝・胆・膵			
① 経皮的胆道ドレナージ	В	С	
② 肝動脈塞栓化学療法 <tace>・動注化学療法</tace>	В	С	
③ 腫瘍局所療法(ラジオ波焼灼術〈RFA〉, エタノール注入療法〈PEI〉)	В	С	
④ 血漿交換療法, 血液浄化療法	В	С	
	В	С	
3) がん治療	1	ı	
① がん化学療法	В	С	
② 分子標的治療	В	С	
③ 放射線療法	В	С	
V. 疾患	·		
1 食道·胃·十二指腸疾患			
1) 腫瘍性疾患			
① 食道癌	Α		В
② 胃良性腫瘍, 粘膜下腫瘍, GIST <gastrointestinal stromal="" tumor=""></gastrointestinal>	Α		В
③ 胃癌	Α		Α
④ 胃悪性リンパ腫,MALTリンパ腫	В		В

消化器	知識	技術・技能	症例
2) 非腫瘍性疾患		ı	
① 食道炎, 食道潰瘍, 胃食道逆流症〈GERD〉, 非びらん性胃食道逆流症〈NERD〉	Α		Α
② 食道運動異常症(食道アカラシア)	Α		В
③ 機能性ディスペプシア〈FD〉	Α		В
<ul><li>④ 食道·胃静脈瘤</li></ul>	Α		В
⑤ Mallory-Weiss症候群	Α		В
⑥ 急性胃炎・急性胃粘膜病変	Α		Α
⑦ 慢性胃炎, Helicobacter pylori感染による胃・十二指腸病変	Α		Α
⑧ 胃・十二指腸潰瘍<消化性潰瘍>	Α		Α
⑨ その他(胃アニサキス症,胃巨大皺襞症)	В		В
2 小腸·大腸疾患			
1) 腫瘍性疾患			
① 小腸腫瘍(ポリープ, リンパ腫, GIST, 癌など)	Α		В
② 大腸ポリープ(過形成性ポリープ, 腺腫)	Α		Α
③ 結腸癌, 直腸癌, 肛門癌	Α		Α
2) 炎症性疾患			
① 感染性腸炎(腸管感染症,細菌性食中毒を含む)	Α		Α
② 虫垂炎	Α		В
③ 腸結核	Α		В
	Α		В
⑤ Crohn病	Α		В
3) その他の疾患			
① 胃切除後症候群(ダンピング症候群, 輸入脚症候群, 胃切除後栄養障害)	Α		В
② 虚血性腸炎	Α		В
③ 偽膜性腸炎	Α		В
<ul><li>④ 過敏性腸症候群</li></ul>	Α		В
⑤ 肛門疾患(痔核, 痔瘻, 裂肛)	Α		В
3 全消化管に関わる疾患			
1) 消化管アレルギー	Α		В
2) 好酸球性胃腸炎	Α		В
3) 薬物性消化管障害 (NSAIDs, 抗菌薬など)	Α		Α
4) 蛋白漏出性胃腸症, 吸収不良症候群, 放射線腸炎	Α		В
5) 消化管ポリポーシス	Α		В
6)消化管神経内分泌腫瘍〈gNET〉	Α		В
7) 憩室性疾患(憩室炎, 憩室出血)	В		В
8) 血管拡張症 <anglectasia></anglectasia>	В		В
9) 消化管アミロイドーシス	A		C
10) その他の疾患			
腸管(型)Behçet, 膠原病に伴う消化管病変(強皮症など)	Α		В
IgA血管炎〈Schönlein-Henoch紫斑病、アナフィラクトイド紫斑病〉に伴う消化器病変			_
4 肝疾患			
1) 炎症性疾患			
① 急性肝炎(A型, B型, C型, E型, EBウイルス, サイトメガロウイルス)	Α		В
② 慢性肝炎	A		В
③ 自己免疫性肝炎〈AIH〉	A		В
	A		<u>В</u>
<del>-</del>			
⑤ 原発性胆汁性肝硬変〈PBC〉	Α		В

消化器	知識	技術・技能	症例
2) 代謝関連疾患	<u> </u>	<u>'</u>	
① アルコール性肝障害	Α		Α
② 脂肪肝, 非アルコール性脂肪性肝障害 〈NAFLD〉, 非アルコール性脂肪肝炎〈NASH〉	Α		Α
③ 薬物性肝障害	Α		В
④ 肝内胆汁うっ滞	В		В
3) 腫瘍性および局所性(占拠性)疾患			
① 肝細胞癌	Α		В
② 転移性肝癌	В		В
③ 肝囊胞	Α		Α
④ 肝海綿状血管腫	В		В
5 胆道疾患			
1) 胆囊・胆道結石症	Α		В
2) 胆囊炎・胆管炎(硬化性胆管炎を含む)	Α		В
3) 胆囊ポリープ, 胆囊腺筋腫症	Α		В
4) 胆道, 胆囊悪性腫瘍(乳頭部腫瘍も含む)	Α		В
6 膵臓疾患			
1) 急性膵炎	Α		В
2)慢性膵炎・膵石症	Α		В
3) 自己免疫性膵炎	Α		С
4) 囊胞性膵疾患	В		В
5) 膵癌	Α		В
6)膵神経内分泌腫瘍 <pnet></pnet>	В		С
7 腹腔・腹壁疾患			
1) 鼠径ヘルニア,大腿ヘルニア,閉鎖孔ヘルニア	В		В
2) 癌性腹膜炎	Α		В
8 急性腹症			
1) 腸閉塞〈イレウス〉	Α		Α
2) 消化管穿孔	Α		В
3) 急性(汎発性)腹膜炎	Α		В
4) 腹膜腫瘍	Α		В
5) 血管疾患	Α		В

循環器	知識	技術・技能	症例
I. 知識			
1. 機能解剖学			
1) 心臓, 動脈系, 毛細血管系, 静脈系, リンパ系	A		
2) 大循環系,小循環系	A		
3) 心臓の興奮と伝導	A		
4) 循環動態の調節	A		
2. 病態生理			
1) 調節機序:神経,内分泌,体液因子	A		
2)不整脈	A		
3) 心不全(右心不全, 左心不全)ショック	A		
4) 心筋虚血	A		
5) アテローム硬化症と不安定プラーク	A		
6) 血圧異常	А		
Ⅱ. 専門的身体診察			
1. バイタルサイン		Α	
2. 血圧(左右差・上下肢差), 末梢動脈触知		Α	
3. 頸静脈の拍動(視診)		Α	
4. 頸動脈の拍動(触診, 聴診)		Α	
5. 前胸壁の拍動(視診, 触診)		Α	
6. 心肺聴診			
1) 過剰心音		Α	
2) 心雑音		Α	
3) 呼吸音→呼吸器の専門的身体診察を参照		Α	
7. 血管雑音		Α	
Ⅲ. 専門的検査			
1. 心電図検査			
1) 心電図	A	Α	
2)Holter心電図	A	В	
3) 運動負荷心電図	A	Α	
2. 超音波検査			
1) 心エコー(経胸壁的)	A	Α	
2) 経食道心エコー	A	С	
3) 頸動脈エコー →神経内科の項を参照	A	В	
3. 胸部X線	A	Α	
4. 心・血管CT	A	Α	
5. 胸•腹部MRI	A	В	
6. 心臓CT,MRI	A	В	
7. 心臓核医学検査			
1) SPECT(運動負荷, 薬物負荷法)	Α	С	
8. 心臓・血管カテーテル検査法		,	
1) 大動脈・末梢血管造影法	A	В	
2) 冠動脈造影・左室造影	A	В	
3)右心カテーテル〈Swan-Ganz〉	A	В	
9. 心臓電気生理学的検査	A	С	
10. 脈波伝達速度 <pwv>/ABI</pwv>	A	В	
11. 循環器疾患の生化学診断(新しいバイオマーカーを含む)	A	В	

循環器	知識	技術・技能	症例
Ⅳ. 治療		•	
. 危険因子矯正法(生活習慣変容)			
1) 減塩	A	Α	
2) 減量	A	Α	
3) 禁煙	A	Α	
4) 食事	A	Α	
5) 運動	A	Α	
6) ストレス緩和法	A	Α	
. 薬物療法	'	-	
1) 強心薬	А	Α	
2) 昇圧薬	A	Α	
3) 利尿薬	A	Α	
4) 血管拡張薬	A	Α	
5) 抗狭心症薬	A	A	
6) 抗不整脈薬	A	В	
7) 降圧薬	A	A	
8) 抗凝固薬・抗血小板薬	A	A	
9) 抗高脂血薬	A	A	
10) 血栓溶解療法(経静脈的ウロキナーゼ, t-PA)	A	В	
. 救急処置	A	Ь	
1)ショック、心原性ショック			
① 中心静脈穿刺法	A	A	
② 大動脈バルーンポンプ〈IABP〉	A	С	
③ 経皮的心肺補助装置〈PCPS〉	A	С	
2) 急性左心不全(急性肺水腫)			
① 気管内挿管法	A	Α	
② 人工呼吸器管理	A	Α	
③ 非侵襲的陽圧換気法(NIPPV)	A	Α	
3) 緊急性不整脈			
① 徐脈性不整脈	A	Α	
② 頻脈性上室性不整脈	A	Α	
③ 頻脈性心室性不整脈	Α	Α	
④ 心室細動	A	Α	
4) 急性冠症候群			
① 初期治療	Α	Α	
② 経皮的冠動脈インターベンション (PCI)	A	С	
<ul><li>・ 血栓溶解療法→IV. 治療2. 薬物療法10)</li><li>・ 血栓溶解療法の項を参照</li></ul>	А	В	
その他の治療法			
1) 待機的除細動	Α	В	
2) カテーテル治療	Ι Λ	U	
1 POBA, ステント法, 薬剤溶出ステント	A	С	
② カテーテルアブレーション		С	
3) 一時ペーシング	A		
	A	В	
4) 植込み型ペースメーカ	A	С	
5) 植込み型除細動器〈ICD〉, 心臓細動期療法〈CRT〉	A	С	
6) 冠動脈バイパス術	A	С	
7) 心臓リハビリテーション	A	В	
8) 心膜穿刺	Α	В	

循環器	知識	新·技能 症例
Ⅴ. 疾患		'
1. 虚血性心疾患		
1) 急性冠症候群		
① 不安定狭心症	A	Α
② 急性心筋梗塞	A	Α
2)安定型狭心症		
① 労作性狭心症	Α	Α
② 安静時狭心症, 異型狭心症	A	Α
3) 陳旧性心筋梗塞,無症候性心筋虚血	A	A
. 血圧異常		T.
1) 本態性高血圧症	Α	A
2) 腎性高血圧症(腎血管性高血圧症を含む)	A	В
3) その他の二次性高血圧症		Т
① 原発性アルドステロン症→内分泌の項も参照	A	В
② 褐色細胞腫→内分泌の項も参照	Α	С
③ Cushing症候群→内分泌の項も参照	A	В
④ 大動脈縮窄症	A	С
4) 低血圧, 起立性調節障害	A	В
. 不整脈		
1) 期外収縮	A	Α
2) 頻脈性不整脈		
① 上室頻拍,WPW症候群	A	Α
② 心房粗・細動	A	A
③ 心室頻拍, 心室細動	A	A
3)徐脈性不整脈		
① 洞不全症候群,	Α	Α
② 房室ブロック	Α	Α
4) QT延長症候群	A	В
5) 心臓突然死, Brugada 症候群	A	С
. 失神		
1) 神経調節性失神	A	В
2) 心原性失神	A	В
感染性心内膜炎	A	В
. 弁膜疾患		
1) 僧帽弁疾患		
① 僧帽弁狭窄症	A	В
② 僧帽弁閉鎖不全症	A	Α
2) 大動脈疾患		
① 大動脈弁狭窄症	A	A
② 大動脈弁閉鎖不全症	A	Α
3) 三尖弁疾患		
① 三尖弁閉鎖不全症	A	В
. 先天性疾患		1
1) 心房中隔欠損症	A	В
2) 心室中隔欠損症	A	В
3) 動脈管開存症	A	С
4)Eisenmenger症候群	A	В

循環器	知識	技術·技能 症	例
8. 心膜疾患	•		
1) 急性心膜炎	Α	E	В
2) 収縮性心膜炎	A	E	В
3) 心タンポナーデ	A	E	В
9. 心筋疾患			
1) 急性心筋炎	A	E	В
2) 肥大型心筋症, 拡張型心筋症	A	A	Α
3) 二次性心筋症			
① 心アミロイドーシス	A	E	В
② 心サルコイドーシス	A	E	В
③ その他の二次性心筋症(心Fabry病など)	A	(	С
4) たこつぼ型心筋症	A	E	В
10. 肺循環異常			
1)肺高血圧症	A	E	В
2)肺性心	A	E	В
3) 肺血栓塞栓症	A	<i>A</i>	Α
11. 大動脈疾患			
1) 大動脈解離,大動脈瘤	A	A	Α
2) Marfan 症候群	A		С
3) 高安動脈炎〈大動脈炎症候群〉	A	E	В
12. 末梢動脈疾患			
1) 閉塞性動脈硬化症	A	<i>A</i>	Α
2)Buerger病	A		С
3) 急性動脈閉塞	A	(	С
13. 静脈疾患(血栓性静脈炎, 深部静脈血栓症)	A	E	В
14. 心不全			
1) 心原性ショック	A	<i>A</i>	Α
2) 急性心不全	A	<i>A</i>	Α
3) 慢性心不全	Α	<i>A</i>	Α
15. 心臓腫瘍	A		O

内分泌	知識	技術·技能	症例
I. 知識			
1 解剖と機能			
1) ホルモン産生器官	Α		
2) ホルモンの種類	Α		
3) ホルモンの作用	Α		
4) ホルモンの調節	Α		
5) 各種病態における内分泌異常	Α		
2 病態生理			
1) 下垂体疾患	Α		
2) 甲状腺疾患	Α		
3) 副甲状腺疾患とカルシウム代謝異常	Α		
4) 副腎疾患	Α		
5) 性腺疾患	Α		
6) 膵および消化管ホルモン分泌異常	Α		
Ⅱ. 専門的身体診察			
1 甲状腺の診察			
1) 甲状腺の視診	Α	Α	
2) 甲状腺の触診	Α	Α	
3) 甲状腺の聴診	Α	Α	
Ⅲ. 専門的検査			
1 内分泌機能検査法			
1) 視床下部・下垂体前葉検査			
① 血中下垂体ホルモン	Α	Α	
② 分泌刺激試験	В	В	
③ 分泌抑制試験	В	В	
2) 下垂体後葉機能検査			
① バゾプレシンの基礎値, 浸透圧との関連	Α	Α	
② 分泌刺激試験	В	В	
3) 甲状腺機能検査			
① 血中甲状腺ホルモン、甲状腺自己抗体	Α	Α	
② <sup>123</sup> I(99mTc)甲状腺摂取率	Α	В	
4) 副甲状腺機能検査			
① 血中副甲状腺ホルモンと血中, 尿中Ca, Pとの関連	Α	Α	
② Ellsworth-Howard試験	Α	С	
③ 骨密度測定,骨吸収マーカー,骨形成マーカー	Α	Α	
5) 副腎機能(副腎皮質・副腎髄質)検査			
① コルチゾール、ACTH、血中レニン、アルドステロン濃度	Α	Α	
② 分泌刺激試験、分泌抑制試験	В	В	
③ カテコラミンおよび代謝物の測定(血中, 尿中)	Α	Α	
6) 副腎静脈サンプリング	Α	С	
7) 性腺機能検査	1	1	
① LH, FSH測定、性ステロイド(E2, テストステロン),	Α	С	
8) 膵および消化管ホルモン分泌異常	1	1	
① 血中膵・消化管ホルモン(インスリン、ガストリン、グルカゴン、VIP)	Α	В	
② 血中クロモグラニンA濃度	В	В	
③ 絶食試験(インスリノーマの診断として) + グルカゴン試験	Α	В	
④ 選択的カルシウム動注静脈サンプリング	Α	В	

内分泌	知識	技術·技能	症例
2 内分泌器官の画像診断			
1) 超音波検査	Α	В	
2) シンチグラフィ	Α	В	
3) CT, MRI	Α	Α	
4) 腹部血管造影(膵神経内分泌腫瘍の局在診断)	В	В	
5) 超音波内視鏡検査	В	В	
3 内分泌疾患の成因診断			
1)HLA検査、遺伝子解析	В	С	
Ⅳ. 治療			
1 ホルモン補充療法			
下垂体機能低下症、甲状腺機能低下症、副甲状腺機能低下症、副腎皮質機能低下症、性腺 <sup>1)</sup> 機能低下症	Α	А	
2 ホルモン分泌過剰症の薬物療法			
1)機能性下垂体腫瘍、甲状腺機能亢進症、副甲状腺機能亢進症	Α	В	
2) 膵神経内分泌腫瘍	В	С	
3 内分泌疾患の救急(endocrine emergency)への対応			
甲状腺クリーゼ、粘液水腫昏睡、副腎クリーゼ、電解質異常(高Na血症、低Na血症、低K血症、 高Ca血症、低Ca血症)	Α	В	
4 外科治療		<del>,</del>	
1) 下垂体腫瘍	В	С	
2) 甲状腺疾患			
① 甲状腺機能亢進症	В	С	
② 甲状腺腫瘍	В	С	
3) 副甲状腺機能亢進症	В	С	
4) 副腎腫瘍	В	С	
5) 膵神経内分泌腫瘍、ガストリノーマ	В	С	
5 放射線治療			
甲状腺機能亢進症	В	С	
Ⅴ. 疾患			
1 視床下部・下垂体疾患			
1) 下垂体前葉機能亢進症			
① 先端巨大症〈アクロメガリー〉	Α		В
② Cushing病	Α		В
③ 高プロラクチン血症(プロラクチノーマを含む)	Α		В
④ TSH產生腫瘍	В		С
2)下垂体前葉機能低下症			
① 下垂体機能低下症(Sheehan症候群を含む)	Α		В
② 成人成長ホルモン分泌不全症	В		С
③ ACTH単独欠損症	В		В
④ 低ゴナドトロピン性性腺機能不全(Kallmann症候群を含む)	В		С
3) 下垂体後葉疾患			
① 尿崩症(心因性多尿症,腎性尿崩症を含む)	В		В
② SIADH	Α		Α
4)視床下部疾患			
① 視床下部腫瘍(頭蓋咽頭腫、胚細胞腫瘍、胚腫を含む)	В		С
② 中枢性摂食異常症(神経性食思不振症を含む)	В		С

内分泌	知識	技術・技能	症例
5) その他の視床下部・下垂体疾患			
① empty sella症候群, リンパ球性下垂体炎, 肉芽腫性疾患	Α		С
2 甲状腺疾患			
1) 甲状腺中毒症			
① Basedow 〈Graves〉病	Α		Α
② Plummer 病	В		С
③ 亜急性甲状腺炎	A		С
④ 無痛性甲状腺炎	A		В
2) 甲状腺機能低下症			
① 慢性甲状腺炎〈橋本病〉	Α		Α
② 術後または放射線ヨード療法後の甲状腺機能低下症	В		С
3)甲状腺腫瘍			
① 悪性腫瘍	A		В
②良性腫瘍	A		Α
3 副甲状腺疾患とカルシウム代謝異常			
1) 高カルシウム血症			
① 原発性副甲状腺機能亢進症	A		В
② 悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症	A		Α
③ その他の高カルシウム血症(薬剤性を含む)	A		С
2) 低カルシウム血症			
① 副甲状腺機能低下症(偽性副甲状腺機能低下症を含む)	A		С
② ビタミンD作用不全症	В		С
3) 低リン血症(腫瘍性骨軟化症など)	В		С
4) 骨粗鬆症			
① 原発性骨粗鬆症	A		В
② 続発性性骨粗鬆症	A		В
4 副腎疾患			
1) 副腎皮質機能亢進症			
① Cushing 症候群	A		В
② 原発性アルドステロン症, 偽性アルドステロン症	A		В
③ Bartter症候群およびGitelman 症候群、先天性副腎過形成	В		С
2) 副腎皮質機能低下症			
① Addison 病	В		С
3) 副腎腫瘍			
① 非機能性副腎皮質腫瘍(incidentalomaを含む)	A		Α
② 褐色細胞腫	В		С
5 多発性内分泌腺異常			
1) 多発性内分泌腺腫瘍症 <men> (Ⅰ型,Ⅱ型)</men>	В		С
2) 自己免疫性多発性内分泌腺症候群(APS I 型, Ⅱ型, Ⅲ型)	В		С
6 性腺疾患	T		
1) Turner 症候群	В		С
2) Kleinfelter 症候群	В		С
3) 多囊胞性卵巣症候群〈PCOS〉	В		В
4) 性分化疾患	В		С
7 神経内分泌腫瘍(ガストリノーマ、インスリノーマ)	В	T	С

代謝	知識	技術・技能	症例
I. 知識	1		
1 解剖と機能			
1) 個体としての代謝調節の概要	Α		
2) 食欲調節のメカニズム	Α		
3) 血糖調節のメカニズム	Α		
4) 蛋白質・アミノ酸代謝のメカニズム	Α		
5) 脂質代謝のメカニズム	Α		
6) プリン(尿酸)代謝のメカニズム	Α		
7) ビタミンの生理作用と必要量	Α		
2 病態生理			
1) 血糖調節と糖尿病	Α		
2) 脂質代謝と脂質異常症	Α		
3) プリン(尿酸)代謝異常と高尿酸血症	Α		
4) ビタミン不足, ビタミン過剰とその病態	В		
Ⅱ. 専門的身体診察			
1 BMI	Α	Α	
2 腹囲	Α	Α	
Ⅲ. 専門的検査			
1 糖代謝に関連する検査			
(疾患診断、原因検索、経過観察のための検査、および末梢および自律神経障害の評価)	Α	Α	
2 脂質代謝に関連する検査			
1) リポ蛋白の測定, リポ蛋白電気泳動	Α	Α	
2) 画像診断の活用			
(アキレス腱軟線撮影、頸動脈エコー、脈波伝導測定)	Α	Α	
3 その他の検査			
1) 内臓脂肪	Α	Α	
Ⅳ. 治療			
1 糖尿病の治療			
1) 1型糖尿病の治療計画と目標	Α	Α	
2) 2型糖尿病の治療計画と目標	Α	Α	
3) 妊娠糖尿病及び糖尿病合併妊娠の治療計画と目標	Α	В	
4) 食事療法	Α	Α	
5) 運動療法	Α	Α	
6) 薬物療法	Α	Α	
7) ① 経口糖尿病治療薬(単剤, 併用)	Α	Α	
② インスリン療法(強化インスリン療法以外の単純なもの)	Α	Α	
③ インスリン療法(強化インスリン療法、CSII)	Α	В	
④ GLP-1受容体作動薬	Α	В	
8) ライフステージに応じた糖尿病のマネージメント(思春期、青・壮年期、老年期など)	A	В	
9) 糖尿病の慢性合併症の予防と治療		1	
(糖尿病網膜症、糖尿病腎症、糖尿病神経障害、大血管障害)	Α	Α	
10) 患者教育	A	A	
2 肥満の治療	, , ,		
1) 食事療法	Α	Α	
2) 運動療法	A	A	
3) 薬物治療	A	В	
4) その他の治療(行動療法や外科的治療)	В	В	

代謝	知識	技術・技能	症例
3 脂質異常症の治療	·	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
1) 食事療法	A	Α	
2) 運動療法	A	Α	
3) 薬物治療	A	Α	
4) 禁煙などの生活指導	Α	Α	
4 高尿酸血症の治療			
1) 食事療法	A	Α	
2) 運動療法	A	Α	
3) 薬物治療(発作時, 緩解期)	A	Α	
Ⅴ. 疾患			
1 1型糖尿病	A		Α
2 2型糖尿病	A		Α
4 他の疾患、条件に伴う糖尿病(二次性糖尿病)	A		В
5 遺伝子異常による糖尿病	В		С
6 糖尿病合併妊娠,妊娠糖尿病	A		В
7 低血糖症			
1) インスリン拮抗ホルモン分泌不全による低血糖(副腎不全など)	A		С
2) インスリノーマ	A		С
3) 反応性低血糖	A		В
4) 薬物による低血糖(糖尿病治療薬によるもの)	A B		A C
5) 薬物による低血糖(糖尿病治療薬によるものを除く) 8 糖尿病の緊急症	В		U
1) 高血糖緊急症			
① 糖尿病ケトアシドーシス	A		В
2 高浸透圧高血糖症候群	A		В
③ 乳酸アシドーシス	A		C
2) 低血糖昏睡	A		В
9 糖尿病の慢性合併症	1		
1) 細小血管障害			
① 糖尿病網膜症	А		Α
② 糖尿病腎症	A		Α
③ 糖尿病神経障害	A		Α
2) 大血管障害			
① 心血管障害	A		Α
② 脳血管障害	A		Α
③ 末梢血管病変(PAD)	A		В
3) 糖尿病に合併しやすい疾患・状態			
① 糖尿病とがん	A		В
② 糖尿病と骨粗鬆症	A		С
③ 糖尿病と認知症	A		С
<ul><li>④ 糖尿病とうつ</li></ul>	В		С
⑤ 糖尿病と歯周病	В		С
10 肥満症			
1) 単純肥満(内臓脂肪肥満, 皮下脂肪肥満)	A		A
2)二次性肥満	A		В
3) メタボリックシンドローム	A		Α

代 謝	知識	技術·技能	症例
11 脂質異常症			
1) 原発性脂質異常症	Α		Α
2) 続発性脂質異常症	Α		Α
12 高尿酸血症			
1) 痛風	Α		Α
2) 無症候性高尿酸血症	Α		Α
13 ビタミン異常症			
1) ビタミン欠乏症(ビタミンB <sub>1</sub> 欠乏, ナイアシン欠乏)	Α		С
2) ビタミン過剰症	В		С
14 微量元素の欠乏症, 過剰症(亜鉛欠乏症, 過剰症)	Α		С

腎臓	知識	技術・技能	症例
I.知識	•		
1 形態,機能,病態生理			
1) 腎臓・尿路系の形態	Α		
2)腎臓の機能	Α		
3)病態生理	Α		
Ⅱ. 専門的身体診察			
1 腎の触診法	Α	Α	
2 腎血管雑音の聴診	Α	Α	
3 肋骨椎骨角叩打痛	Α	Α	
4 体液量の評価	Α	Α	
Ⅲ. 専門的検査			
体液バランス(水・電解質,酸塩基平衡)			
1) 血中, 尿中電解質	Α	Α	
2) 血液ガス分析, 酸塩基平衡	Α	Α	
3) 血漿浸透圧・尿浸透圧	Α	Α	
? 尿·血液検査			
1) 尿検査	A	Α	
2) 血液検査	A	Α	
3 腎機能・尿細管機能			
1) 腎機能	A	A	
2)尿細管機能	A	A	
1 腎尿路の画像検査(超音波 , CT, 腎盂造影, レノグラム, 腎シンチグラフィ, MRI) 5 腎生検	А В	A C	
N. 治療	Ь	U	
1 <b>4 : / 1 / 1</b> / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 /			
「生活指導(崇煌,連動) 2 食事指導(低蛋白食,塩分制限,カリウム制限食)	A	A	
2 良事指导(1515日長, 塩ガ前限, カザウム前限長) 3 輸液・水・電解質管理(適応, 輸液の種類と用法)	A	A	
5 柳夜・小・竜杵員官垤(過心,柳夜の怪頬C用広) 1 薬物療法	A	Α	
1)抗血小板薬	А	Α	
2) 副腎皮質ステロイド	A	A	
3) 免疫抑制薬	A	A	
4) 利尿薬	A	A	
5) 降圧薬	A	A	
6) 高脂血症薬	A	A	
7) 貧血改善薬	A	Α	
5 血液透析,腹膜透析,血漿交換療法,免疫吸着療法,アフェレシス	В	С	
6 インターベンション (腎血管拡張術, ステント)	В	С	
7 腎移植(ドナーとレシピエント,移植と免疫)	В	С	
3 尿路結石治療法(体外衝撃波砕石法を含む)	В	С	
V. 疾患			
CKD			
1) 慢性腎臓病 〈CKD〉→慢性腎不全(末期腎不全〈ESKD〉を含む)	А		Α
2.急性腎障害	,	<u> </u>	
1) 急性腎障害(腎前性、腎性、腎後性) <aki></aki>	Α		Α

腎臓	知識	技術・技能	症例
3 糸球体疾患	1	<u>'</u>	
1) 一次性			
① ネフローゼ症候群			
微小変化群			
巣状分節性糸球体硬化症	Α		Α
膜性腎症			^
膜性増殖性糸球体腎炎			
先天性ネフローゼ症候群フィンランド型			
② 慢性糸球体腎炎 (IgA腎症など)	Α		Α
③ 急性糸球体腎炎	Α		В
④ 急速進行性糸球体腎炎 (ANCA関連,抗GBM抗体関連, 免疫複合体関連)	Α		В
2) 二次性			
① 糖尿病腎症→CKDも参照	Α		Α
② ループス腎炎	Α		В
③ IgA血管炎〈Schönlein-Henoch 紫斑病, アナフィラクトイド紫斑病〉	В		В
④ HCV腎症, HBV腎症	Α		В
⑤ 敗血症、感染性心内膜炎	Α		В
⑥ 抗GBM抗体病〈Goodpasture症候群〉→AKIも参照	В		С
が	В		С
<ul><li>✓ 〈Wegener肉芽腫症〉、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症〈Churg-Strauss症候群〉]</li><li>⑧ クリオグロブリン血症</li></ul>	В		С
9 アミロイド腎症	В		C
プラップ・ロイト 自症	В		C
	Ь		U
① Alport症候群→CKDも参照,菲薄基底膜病,Fabry病→CKDも参照	В		С
4 尿細管·間質疾患	В		U
4 水神目・同員状態 1) 急性尿細管壊死,腎皮質壊死→急性腎不全を参照	٨		Λ
	A		Α
2) 薬物性腎障害 3) 間質性腎炎	Α		Α
(1) 特発性間質性腎炎(急性·慢性)	В		
9 (0) 1 (0) (0) (0)	В		В
② 二次性間質性腎炎(痛風腎、Sjögren症候群、IgG4関連疾患など) 4) 遺伝性	В		В
① 腎性糖尿, Bartter症候群 / Gitelman症候群, Liddle症候群, Fanconi症候群, Dent病(特 発性尿細管性蛋白尿症)	В		С
5) 逆流性腎症(膀胱尿管逆流現象)→慢性腎盂腎炎も参照	В		С
6) 骨髄腫腎	В		С
5 血管系疾患			
1) 腎性高血圧,腎血管性高血圧	Α		Α
2) 腎硬化症(良性, 悪性, 動脈硬化性)→腎不全も参照	Α		Α
3) コレステロール塞栓症→腎不全も参照	Α		В
4) 血栓性細小血管症 (溶血性尿毒症症候群〈HUS〉, 血栓性血小板減少性紫斑病〈TTP〉)→血液 疾患の項も参照	Α		В
5) 血栓性腎血管病(腎梗塞, 腎静脈血栓症)	В		С
6) 結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎→AKIも参照	A		В

腎臓	知識	技術·技能	症例
6 水·電解質代謝異常			
1) 脱水症, 溢水症, 体液量減少、Na代謝の異常	Α		Α
2) K代謝の異常	Α		Α
3) Ca, P, Mgの異常	Α		Α
4) 酸塩基平衡異常(代謝性)			
① 尿毒症性アシドーシス,乳酸アシドーシス,尿細管性アシドーシス(Fanconi症候群を含む)	Α		Α
② 糖尿病ケトアシドーシス	Α		В
7 腎尿路感染症			
1) 急性腎盂腎炎	Α		Α
2)慢性腎盂腎炎	Α		В
3) 下部尿路感染症(性行為感染症, 出血性膀胱炎を含む)	Α		Α
8 泌尿器科的腎·尿路疾患			
1) 腎•尿路結石, 腎石灰化症	Α		Α
2) 前立腺肥大症, 前立腺癌	В		С
3) 囊胞性腎疾患(多発性囊胞腎)	Α		Α
4) 腎·尿路腫瘍(腎腫瘍、腎盂·尿路腫瘍、膀胱腫瘍)	В		С

呼吸器	知識	技術・技能	症例
I.知識			
1 形態, 発生, 機能, 病態生理			
1) 呼吸器の発生	Α		
2) 呼吸器の構造	Α		
3) 呼吸生理, 呼吸器の生体防御機構(免疫、遺伝子、粘液線毛輸送系), 肺循環	Α		
4)肺の代謝機能	A		
5) 呼吸器の加齢	A		
Ⅲ.専門的身体診察			
1 視診			
1) 呼吸のリズムと異常	А	Α	
2) 呼吸筋活動・胸郭異常	Α	Α	
3) 頸静脈怒張	Α	Α	
4) Horner症候群	Α	Α	
2 触診	T		
1) 握雪感	A	Α	
2) 触覚振盪	A	Α	
3)胸郭運動	A	A	
4) リンパ節 3 打診	Α	Α	
1)鼓音	Α	Δ.	
2) 濁音	A	A	
4 聴診		^	
1) 呼吸音	Α	Α	
2) 副雑音	, ,	,,	
① 連続性ラ音(低音性:rhonchi, 高音性:wheezes, 吸気性:squawk)	Α	Α	
② 断続性ラ音 (細かい: fine crackles, 粗い: coarse crackles)	A	Α	
③ その他(胸膜摩擦音, Hamman徴候, 肺血管性雑音)	Α	Α	
Ⅲ. 専門的検査			
1 胸部画像診断			
1) 胸部X線	Α	Α	
2) 胸部CT	A	A	
3)胸部MRI, MRA	A	В	
4) 胸部X線透視	Α	Α	
5) 超音波検査(胸部, 心臓)	А	Α	
6) 肺血管造影	А	В	
2 核医学的診断			
1) 肺換気・血流シンチグラフィ	Α	В	
2) Gaシンチグラフィ	Α	В	
3) 骨シンチグラフィ	Α	В	
4) ポジトロンエミッション断層撮影〈PET〉	Α	В	
3 喀痰(誘発痰を含む、胸水)検査	T T		
1) 細胞診(細胞分画を含む)	A	В	
2) 微生物学的検査(鏡検, 培養)	A	Α	
3) 核酸增幅検査	A	В	
4 腫瘍マーカー(SCC, CEA, CYFRA, NSE, ProGRP)	A	A	
5 血清学的検査(抗病原体抗体, 病原体抗原, 自己抗体, KL-6, SP-D, SP-A)	A	A	
6 気管支内視鏡検査(擦過法, 生検, 気管支肺胞洗浄)	В	В	
7 胸腔鏡検査(肺・胸膜含む)	В	С	
8 その他の生検法等(経皮的肺・胸膜生検, 胸膜生検)	В	В	

呼吸器	知識	技術・技能	症例
9 胸腔穿刺術	В	В	
10 呼吸機能検査	1	1	
1) 換気力学検査			
① ピークフローメータ	Α	Α	
② スパイロメトリ(肺気量分画, フロー・ボリューム曲線)	Α	Α	
③ その他(残気量, 気道抵抗, コンプライアンス, クロージングボリューム)	В	В	
2) ガス交換機能	Α	Α	
11 肺循環検査			
1) 中心静脈圧測定	Α	Α	
2) 右心カテーテル検査(肺動脈造影)	Α	В	
12 睡眠時呼吸モニター	Α	Α	
13 動脈血ガス分析	Α	Α	
14 経皮的酸素飽和度モニター	Α	Α	
15 運動負荷試験(6分間歩行試験, 運動負荷呼吸代謝測定)	Α	Α	
16 気道過敏性・可逆性試験	Α	В	
17 呼吸中枢機能検査	В	С	
18 感染症診断法(痰検査(鼻咽頭ぬぐい液を含む), ウイルス検査(迅速診断を含む), 血液検査(真菌、 結核を含む), 尿中抗原による診断法), 遺伝子診断法)	Α	Α	
19 その他の遺伝子診断法(EGFR、ALKなどを含む)	В	С	
Ⅳ. 治療		J	
1 禁煙指導:ニコチンガム, ニコチンパッチ	Α	Α	
2 薬物治療			
1) 気管支拡張薬, 鎮咳薬, 去痰薬	Α	Α	
2) 副腎皮質ステロイド, 免疫抑制薬	Α	Α	
3) 抗病原微生物薬(抗菌薬, 抗ウイルス薬, 抗真菌薬)	Α	Α	
4) 抗腫瘍薬, 副作用緩和治療薬	Α	Α	
5) 疼痛•緩和治療薬	Α	Α	
6) 抗凝固療法	Α	Α	
7) 抗アレルギー薬	Α	Α	
8) 漢方薬	Α	Α	
9) 予防的ワクチン(インフルエンザ, 肺炎球菌)	Α	Α	
3 酸素療法∶高流量・低流量,高濃度・低濃度酸素療法	Α	Α	
4 吸入療法(定量噴霧式吸入器(MDI), ドライパウダー吸入器(DPI), ネブライザー)	Α	Α	
5 体位ドレナージ	Α	Α	
6 気管内挿管	Α	Α	
7 気管切開	Α	В	
8 人工呼吸療法			
1) 気管内挿管下人工呼吸	Α	Α	
2) 非侵襲的陽圧換気 <nippv></nippv>	Α	Α	
9 胸腔ドレナージ	Α	Α	
10 放射線療法	Α	В	
11 在宅呼吸療法	I	1	
1) 在宅酸素療法	Α	Α	
2) 在宅人工呼吸療法	Α	Α	
3) 持続的陽圧呼吸療法〈CPAP〉	Α	Α	
12 呼吸リハビリテーション	A	В	
13 輸液療法	1 -	1	
1) 水•電解質輸液	Α	Α	
2) 高カロリー輸液	A	A	
14 経管栄養法	A	В	

呼吸器	知識	技術·技能	症例
15 減感作療法	Α	В	
16 気管支動脈塞栓術	Α	С	
17 内視鏡的治療法			
1) 気道吸引	Α	В	
2) 気道内異物除去	Α	В	
3) その他			
① 止血法	В	В	
② レーザー照射	В	С	
③ ステント留置	В	С	
18 在宅酸素療法			
1) 在宅酸素療法	Α	В	
2) 在宅人工呼吸	Α	В	
Ⅴ. 疾患			
1 気道·肺疾患			
1) 感染性呼吸器疾患			
① 急性上気道感染症/感冒(かぜ症候群)	Α		Α
② 急性気管支炎	A		Α
③ 急性細気管支炎	Α		С
	Α		Α
⑤ 細菌性肺炎(市中肺炎, 院内肺炎)	Α		Α
(a) 肺化膿症	A		Α
⑦ 嚥下性肺炎	A		A
	A		C
9 マイコプラズマ肺炎	A		A
① クラミジア肺炎(クラミドフィラ肺炎), レジオネラ肺炎	A		В
① 肺真菌症	A		В
① 肺結核症, 非結核性抗酸菌症	A		A
(3) ニューモシスチス肺炎, 日和見感染症	A		В
(4) 胸膜炎(細菌性, 結核性)	A		A
(15) 膿胸	A		В
	A		C
① 肺寄生虫症	В		C
(18) インフルエンザ	A		A
2) 気管・気管支・肺の形態・機能異常, 外傷			
① 気管支拡張症	Α		Α
② 閉塞性細気管支炎	A		C
③ びまん性汎細気管支炎〈DPB〉	A		C
④ COPD<慢性閉塞性肺疾患>	A		A
⑤ 気腫性嚢胞(ブラ, ブレブ)、気管支嚢胞	A		A
⑥ 肺リンパ脈管筋腫症〈LAM〉	В		C
⑦ 原発性線毛機能不全症〈Kartagener症候群〉	A		C
② 無気肺	A		
3) 免疫学的機序が関与する肺疾患	^		^
① 気管支喘息	Α		Α
	A		C
③ 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 <churg-strauss症候群></churg-strauss症候群>	A		С
④ 過敏性肺炎	A		В
⑤ 好酸球性肺炎(急性および慢性)	A		В
⑥ サルコイドーシス	Α		Α

呼吸器	知識	技術·技能	症例
⑦ 膠原病による間質性肺炎	Α		В
⑧ 多発血管炎性肉芽腫症〈Wegener肉芽腫症〉	Α		С
⑨ 抗GBM抗体病〈Goodpasture症候群〉,肺胞出血	Α		С
4) 特発性間質性肺炎(IIPs)			
特発性肺線維症〈IPF/UIP〉,非特異性間質性肺炎〈NSIP〉,特発性器質化肺炎〈COP〉, ① 剥離性間質性肺炎〈DIP〉,リンパ球性間質性肺炎〈LIP〉,呼吸細気管支炎関連性間質性 肺炎〈RB-ILD〉,急性間質性肺炎〈AIP/DAD〉	А		В
5) 薬物、化学物質、放射線による肺障害			
<ul><li>薬物誘起性肺疾患, 化学薬品、重金属などによる肺障害, 酸素中毒, 大気汚染, パラコート中毒, 放射線肺炎</li></ul>	Α		В
6) じん肺症			
① 珪肺症, 石綿肺, 有機じん肺, その他のじん肺	Α		В
7) 肺循環異常			
① 肺うっ血, 肺水腫	Α		Α
② 急性肺障害〈ALI〉、急性呼吸促迫症候群〈ARDS〉	Α		Α
③ 肺血栓塞栓症・肺梗塞	Α		Α
④ 肺高血圧症(原発性, 二次性), 肺性心	Α		В
⑤ 肺動静脈瘻, 肺分画症	В		С
8) 呼吸器新生物(気管・気管支・肺)			
① 原発性肺癌(小細胞癌、腺癌、扁平上皮癌、大細胞癌)	Α		Α
② カルチノイド	Α		С
	Α		В
2 胸膜・縦隔・横隔膜・胸郭の疾患	1		
1) 胸膜疾患			
①	Α		Α
② 血胸	A		В
	A		A
	A		 B
⑤ 胸膜肥厚斑, 胸膜斑, 胸膜中皮腫	A		В
2) 縦隔疾患	7,		
① 縦隔気腫,皮下気腫	Α		В
② 上大静脈症候群	A		С
③ 反回神経麻痺	A		C
④ 縦隔腫瘍(胸腺腫, 胚細胞性腫瘍, 神経原性腫瘍, 嚢胞性腫瘍, 悪性リンパ腫)	A		В
3) 横隔膜疾患	Α.		ט
① 横隔神経麻痺	Α		В
② 横隔膜ヘルニア	A		С
4) 胸郭、胸壁の疾患(外傷を含む)	_ ^		- 0
① 胸郭変形(漏斗胸)	Α		В
② 肋間神経痛			В
3 呼吸不全·呼吸調節障害	Α		D
1) 呼吸不全			
① 急性呼吸不全	Α		A
② 慢性呼吸不全、急性増悪、肺性脳症〈CO₂ナルコーシス〉	A		A
2) 呼吸調節障害	А		А
,	Α .		Α
① 閉塞型睡眠時無呼吸症候群	A		Α
② 中枢型睡眠時無呼吸症候群	A		C
③ 肺胞低換気症候群、神経筋疾患に伴う呼吸不全	A		Α
④ 過換気症候群	Α		Α

血液	知識	技術・技能	症例
I. 知識			
1 形態,機能,病態生理			
1) 造血臓器および血球の構造と機能	A		
2) 血液細胞の発生と分化	В		
3) 血漿蛋白質	A		
4) 止血機序	A		
Ⅱ. 専門的身体診察			
1 貧血症状の診察	Α	Α	
2 出血傾向	A	Α	
3 リンパ節腫脹	A	Α	
4 肝脾腫	A	Α	
Ⅲ. 専門的検査			
1 末梢血血算と赤血球指数、末梢血塗抹標本の作成と鏡検	А	Α	
2 骨髄穿刺・骨髄生検、骨髄像の評価			
1) 骨髄穿刺	A	Α	
2) 骨髄生検	В	В	
3) 骨髄像の評価	В	С	
3 細胞化学検査	A	В	
4 造血因子·造血関連物質測定	A	В	
5 溶血に関する検査	A	Α	
6 細胞表面抗原検査	В	В	
7 血漿蛋白質検査	A	Α	
8 出血時間, 血小板機能検査	A	В	
9 凝固・線溶系に関する検査	A	Α	
10 染色体検査,分子遺伝学的検査	В	В	
11 腰椎穿刺,脳脊髄液検査			
1) 腰椎穿刺	A	Α	
2) 脳脊髄液検査の評価	A	С	
12 画像検査	A	В	
	,	1	
1 血液疾患に対する食事療法	A	Α	
2 血液疾患に対する薬物療法	l l		
1) 鉄剤, 葉酸, ビタミンB12	A	Α	
2) アンドロゲン,蛋白同化ホルモン,副腎皮質ステロイド	Α	Α	
3) 免疫抑制療法	В	В	
4) 造血因子製剤,凝固因子製剤	A	Α	
5) 抗腫瘍薬	В	Α	
6) 制吐薬	A	A	
3 血液疾患に対する輸血療法	A	A	
4 造血幹細胞移植	В	C	
5 血液疾患に対する特殊治療	В	C	

血液	知識	技術・技能	症例
V. 疾患			
1 赤血球系疾患			
1) 出血性貧血	Α		Α
2) 鉄欠乏性貧血	Α		Α
3) 巨赤芽球性貧血(ビタミンB <sub>12</sub> 欠乏性貧血,葉酸欠乏性貧血)	Α		В
溶血性貧血(自己免疫性溶血性貧血,遺伝性球状赤血球症,発作性夜間へモグロビン尿症, 4)薬物性もしくは感染症による溶血性貧血,微小血管性溶血性貧血)	В		В
5) 再生不良性貧血	Α		В
6) 赤芽球癆	Α		С
7) 全身性疾患に併発する貧血<二次性貧血>	Α		Α
2 白血球系疾患			
1) 類白血病反応	Α		С
2) 無顆粒球症	Α		С
3) 急性白血病(急性骨髄性白血病, 急性リンパ性白血病)			
① 急性骨髄性白血病〈AML〉	Α		В
② 急性リンパ性白血病 〈ALL〉	Α		В
4)慢性白血病(慢性骨髄性白血病,慢性リンパ性白血病)			
① 慢性骨髄性白血病 〈CML〉	Α		В
② 慢性リンパ性白血病 〈CLL〉	В		С
5) 骨髄異形成症候群 〈MDS〉	A		В
6) 骨髄増殖性疾患			
① 真性赤血球増加症	В		С
② 本態性血小板血症	В		С
③ 原発性骨髄線維症	В		С
7) 悪性リンパ腫(Hodgkinリンパ腫,非Hodgkinリンパ腫)	Α		Α
8) 成人T細胞白血病/リンパ腫〈ATL〉	Α		С
9) 伝染性単核球症	Α		В
10) 血球貧食症候群	Α		С
3 血漿蛋白異常症			
多発性骨髄腫,MGUS <monoclonal gammopathy="" of="" significance="" undetermined="" 意義不明の単<br="">1)クローン性ガンマグロブリン血症〉,原発性マクログロブリン血症</monoclonal>	Α		В
4 出血·血栓性疾患	1	1	
1) 特発性血小板減少性紫斑病 <itp></itp>	Α		В
2) 血小板機能異常症	В		С
3) 血友病	Α		С
4)播種性血管内凝固 〈DIC〉	Α		Α
5) 血栓性血小板減少性紫斑病 〈TTP〉、溶血性尿毒症症候群 〈HUS〉→腎臓の項も参照	Α		В
血栓性疾患(先天性:プロテインC欠損症, プロテインS欠損症, アンチトロンビンⅢ欠損症など 6) 後天性:抗リン脂質抗体症候群, 深部静脈血栓症など)	В		В
7) ヘパリン起因性血小板減少症〈HIT〉	Α		С

神経	知識	技術・技能	症例
I. 知識		"	
1. 機能解剖			
1) 高次脳機能(大脳)・機能局在	А		
2) 脳神経(脳幹)	A		
3) 運動系(錐体路系、錐体外路系、小脳系)	A		
4) 感覚系	A		
5) 反射	A		
6) 自律神経系	A		
7) 脊髄、末梢神経、筋	A		
8) 神経系に関連する血管系	A		
2. 病態生理	·		
1) 意識障害	А		
2) 運動ニューロン障害	А		
3) 錐体外路障害	A		
4) 運動失調	A		
5) ニューロパチー(脱髄・軸索変性)	A		
6) 神経系における炎症	В		
7) 遺伝子異常による神経変性	В		
8) 頭蓋内圧亢進	A		
9) 脳症	A		
Ⅱ. 専門的身体診察			
1. 大脳機能の診察			
1) 意識状態	А	Α	
2) 精神状態	A	Α	
3) 言語(失語·構音)	А	Α	
4) 認知機能(記憶を中心に)	A	Α	
5) 記憶以外の高次脳機能(失行・失認・遂行機能・注意障害など)	В	В	
2. 脳神経の診察	Α	Α	
3. 四肢ならびに体幹の診察		<del>,</del>	
1) 運動系(四肢/体幹筋の視診・筋力・筋トーヌス)	A	Α	
2) 反射系(深部腱反射・表在反射・病的反射)	A	Α	
3) 運動調節系(協調運動·測定障害·感覚失調)	A	Α	
4) 感覚系	A	Α	
5) 不随意運動(安静/誘発視診)	A	Α	
6) 起立·歩行	A	Α	
7) 脊柱	В	В	
8) 自律神経系(Schellong試験)	A	Α	
9) 髄膜刺激症状の診察	A	Α	
4. 脳死状態の診察	В	С	
Ⅲ. 専門的検査			
1. 主として判定を行う検査			
1) 頭部·脊椎単純X線	A	Α	
2) 頭部CT·頭部/脊椎脊髄MRI検査	A	Α	
3) 骨格筋CT·MRI検査	В	С	
4) 脳血流シンチグラフィ(SPECT)	A	В	
5) MIBG心筋シンチグラフィ	В	В	
6) 脳波検査	В	С	
7) 神経筋生理学的検査(末梢神経伝導検査・誘発筋電図)	A	В	

神経	知識	技術·技能	症例
2. 自ら施行し判定を行う検査	•		
1) 腰椎穿刺[脳脊髄液検査]	Α	Α	
2) 頸動脈超音波検査	А	В	
3) 神経筋生理学的検査(針筋電図・表面筋電図・経頭蓋磁気刺激)	В	С	
4) 筋生検・末梢神経生検	В	С	
5) テンシロンテスト	Α	В	
6) 脳血管撮影	В	С	
Ⅳ. 治療			
1. 薬物治療			
1) 抗凝固薬・抗血小板薬(静注薬:脳梗塞急性期)	Α	Α	
2) 抗血小板薬・抗凝固薬(経口薬:脳梗塞急性期および慢性期再発予防)	Α	Α	
3) 抗脳浮腫薬・脳保護薬(脳梗塞急性期静注薬)	Α	Α	
4) t-PA	Α	В	
5)PArkinson病治療薬	Α	Α	
6) 振戦治療薬	Α	Α	
7)Alzheimer病治療薬	Α	Α	
8) 抗てんかん薬	Α	Α	
9) 片頭痛治療薬	А	Α	
10) 向精神薬(抗不安薬を含む)	А	Α	
11) 抗めまい薬	Α	Α	
12)抗コリンエステラーゼ薬	Α	В	
13) 副腎皮質ステロイド・免疫抑制薬	Α	В	
14) 抗ウイルス薬・抗菌薬	Α	Α	
2. 救急処置と初期対応		1	
1) 脳卒中	Α	Α	
2) 意識障害・せん妄	Α	Α	
3) けいれん・てんかん	Α	Α	
4) 悪性症候群	Α	Α	
5) めまい発作	Α	В	
6) 頭痛発作(片頭痛・群発頭痛)	Α	Α	
7) くも膜下出血初期対応	Α	В	
8) 重症筋無力症クリーゼ	Α	В	
3. その他の治療法	1	1	
1) リハビリテーション(PT・OT・ST・嚥下リハビリテーションを含む)の指示・評価	Α	В	
2) ステロイド療法	Α	Α	
3) 免疫グロブリン大量療法・血漿交換/免疫吸着療法	Α	В	
4) 神経ブロック(三叉神経痛・大後頭神経痛)	В	С	
5) ボツリヌス毒素治療	В	С	
6) 人工呼吸器管理(NIPPV·PPV)	Α	Α	
7) 栄養管理(胃瘻·IVH)	A	Α	

神経	知識	技術・技能	症例
Ⅴ. 疾患			
1. 脳血管障害			
1) 脳梗塞(アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞)	Α		Α
2) 一過性脳虚血発作	Α		Α
3) 脳出血	Α		Α
4) くも膜下出血	Α		В
5) 慢性硬膜下血腫	Α		В
6) 脳動脈解離	В		В
7) 静脈洞血栓症	В		В
8) 高血圧性脳症	Α		В
2. 感染性•炎症性疾患			
1) 髄膜炎・脳炎・脳膿瘍	Α		Α
2) プリオン病	Α		С
3) 帯状疱疹	Α		Α
4) 感染性心内膜炎	Α		В
5) 神経サルコイドーシス・神経Behçet病	Α		В
6) 肥厚性硬膜炎	В		С
7) AIDSおよび免疫不全関連の神経障害およびHAM	В		С
8) 破傷風	Α		С
3. 免疫性神経疾患			
1)中枢性脱髄疾患			
① 多発性硬化症・視神経脊髄炎	Α		Α
② 急性散在性脳脊髄炎	В		С
2) 免疫性末梢神経疾患			
① Guillain-Barré症候群	Α		Α
② 慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー〈CIDP〉	Α		Α
3) 免疫性筋疾患			
① 多発筋炎・皮膚筋炎	Α		В
② 重症筋無力症・Lambert-Eaton 症候群	Α		Α
4. 末梢神経疾患(免疫性末梢神経疾患以外)			
1)糖尿病性ニューロパチー、ビタミン欠乏性/中毒性ニューロパチー	Α		Α
2) Charcot-Marie-Tooth病	Α		С
3) Crow-深瀬症候群(形質細胞異常に伴うニューロパチー/POEMS症候群)	В		С
4) 単二ューロパチー(Bell麻痺・動眼神経麻痺を含む)	Α		Α
5) 圧迫性ニューロパチー(手根管症候群・腓骨神経麻痺・橈骨神経麻痺を含む)	Α		В
6) 神経痛(三叉神経痛・大後頭神経痛を含む)	Α		Α
5. 筋疾患(免疫性筋疾患以外)			
1) 内分泌・代謝性ミオパチー(低カリウム性ミオパチーを含む)	Α		В
2) 周期性四肢麻痺	Α		С
3) ミトコンドリア脳筋症	Α		С
4) 進行性筋ジストロフィー	Α		С
5) 筋強直性ジストロフィー	Α		С

神経	知識	技術·技能	症例
6. 変性疾患			
1)Parkinson病	Α		Α
2)Parkinson症候群	В		В
3) 筋萎縮性側索硬化症	Α		Α
4) 脊髄小脳変性症、多系統萎縮症	Α		Α
5)Huntington病	В		С
7. 認知症疾患	·		
1) Alzheimer病	Α		Α
2)Lewy小体型認知症	Α		Α
3) 前頭側頭葉変性症	Α		С
4) 血管性認知症	Α		Α
5) 正常圧水頭症	Α		В
8. 機能性疾患		- 1	
1)良性発作性頭位性眩暈症 • Ménière病	Α		Α
2) てんかん(特発性・症候性)	Α		Α
3) 片頭痛·緊張型頭痛·群発頭痛	Α		Α
4) 半側顔面攣縮·Meige症候群、斜頚	Α		В
5) 本態性/老人性振戦	Α		Α
9. 自律神経疾患			
1) 起立性低血圧	Α		Α
2) その他の自律神経疾患(純粋自律神経機能不全・Raynaud病を含む)	В		С
10. 脊椎•脊髄疾患			
1) 脊椎病変による神経根・脊髄症(頸部脊椎症・後縦靭帯骨化症・椎間板ヘルニアを含む)	Α		Α
2) 脊髄空洞症	В		В
3) 脳脊髄液減少症	В		В
11. 腫瘍性疾患			
1) 脳腫瘍(原発性・転移性)	Α		Α
2) 脊髄腫瘍(原発性・転移性)・急性圧迫性脊髄症	Α		В
3) 髄膜癌腫症	Α		В
4) 傍腫瘍症候群(癌性ニューロパチー・癌性小脳変性症を含む)	Α		С
12. 代謝性疾患			
1)Wernicke脳症・Korsacoff症候群、アルコール性神経障害	Α		Α
2) 副腎白質ジストロフィー	В		С
3) 橋中心髄鞘崩壊	Α		С
13. medical neurology・その他			
1) 腎/肝/内分泌疾患等に伴う神経障害	Α		Α
2) 膠原病に伴う神経障害	Α		В
3) 血液疾患に伴う神経障害	Α		В
4) 先天異常	В		С
5) 身体表現性障害	Α		С

アレルギー	知識	技術·技能	症例
I. 知識			
1. 形態,機能,病態生理			
1) アレルギー反応(Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ型)	Α		
2) 抗原(アレルゲン)	Α		
3) IgE抗体・免疫グロブリン	Α		
4) 免疫担当細胞(リンパ球、好酸球、マスト細胞、好塩基球)	Α		
5) 補体	Α		
6) 化学伝達物質( ヒスタミン, ロイコトリエン, PAF)	Α		
7) サイトカイン/ケモカインとその受容体,接着分子	Α		
8) アレルギー性炎症	Α		
9) 自然免疫・獲得免疫	Α		
10) 免疫寛容	Α		
11)免疫不全	Α		
Ⅱ.専門的身体診察			
1. 聴診、打診(連続性ラ音、断続性ラ音、鼓音、濁音)	Α	Α	
2. 皮膚・粘膜の視診(蕁麻疹,接触皮膚炎,アトピー性皮膚炎,薬疹)	Α	В	
3. 上気道・下気道、肺、循環器系の診察 (アレルギー性鼻炎、気管支喘息、過敏性肺炎、アナフィラキシー)	А	А	
Ⅲ. 専門的検査		<u>'</u>	
1. 皮膚検査(プリックテスト,皮内テスト,パッチテスト)	Α	С	
2. 総IgE値、抗原特異的IgE抗体	Α	Α	
3.リンパ球刺激試験(薬剤)	Α	С	
4. 好塩基球活性化試験(ヒスタミン遊離試験等)	Α	С	
5. アレルゲン誘発試験	Α	С	
6. 呼吸機能検査			
1) 換気力学検査			
① ピークフローメータ	Α	Α	
② スパイロメトリ(肺気量分画, フローボリューム曲線)	Α	Α	
③ その他(残気量, 気道抵抗, コンプライアンス, クロージングボリューム)	В	В	
2) ガス交換機能(呼気ガス分析, 肺胞換気量, 拡散能力, 換気血流比, シャント率)	В	В	
7. 動脈血ガス分析	Α	Α	
8. 経皮的酸素飽和度モニター	Α	Α	
9. 気道過敏性・可逆性試験	В	С	
10. 呼気一酸化窒素 <no>測定</no>	В	С	

アレルギー	知識	技術·技能	症例
Ⅳ. 治療			
1. 原因抗原(アレルゲン)の回避・除去	Α	Α	
2. 免疫療法(減感作療法)	Α	С	
3. 薬物療法			
1) 副腎皮質ステロイド	Α	Α	
2) 免疫抑制薬	Α	В	
3) ロイコトリエン受容体拮抗薬	Α	Α	
4) 抗ヒスタミン薬(ヒスタミンH1拮抗薬)	Α	Α	
その他の抗アレルギー薬(メディエーター遊離抑制薬、トロンボキサンA2阻害薬、Th2サイトカイン阻害薬)	Α	А	
6) β 刺激薬	Α	Α	
7) アドレナリン(エピペン®)	Α	В	
8) キサンチン薬	Α	Α	
9) 和漢薬	В	В	
10)抗IgE抗体療法	В	В	
11)生物学的製剤	В	В	
4. 吸入療法(定量噴霧式吸入器(MDI), ドライパウダー吸入器(DPI), ネブライザー)	Α	Α	
5. その他の治療法		1	
1)生活指導	В	В	
Ⅴ. 疾患			
1. 喘息、肺疾患			
1) 気管支喘息(NSAIDs過敏喘息を含む)	Α		Α
2) アレルギー性気管支肺真菌症	Α		С
3) 過敏性肺炎	Α		В
4) 好酸球性肺炎(急性および慢性)	Α		В
5) 薬剤誘発性肺障害	Α		Α
2. 全身性疾患・その他		*	
1) アナフィラキシー	Α		Α
2) 食物アレルギー (食物依存性運動誘発性アナフィラキシー, 口腔アレルギー症候群を含む)	Α		В
3) 薬物アレルギー(Stevens-Johnson症候群、薬剤性過敏症症候群を含む)	Α		В
4) 好酸球増多症候群(好酸球性血管性浮腫を含む)	Α		В
5)好酸球性多発血管炎性肉芽腫症〈Churg-Strauss症候群〉	Α		С
6) 好酸球性胃腸炎・食道炎	В		С

膠原病及び類縁疾患	知識	技術·技能	症例
I. 知識			
1. 形態,機能,病態生理			
1) 免疫系の構成因子	Α		
2) 免疫系の分化と機能	Α		
3) 自己免疫	Α		
4) 自己抗体(自己抗体の産生機序)	Α		
2. 主要病変			
1) 関節病変(関節炎、付着部炎)	Α		
2) 皮膚・粘膜病変(蝶形紅斑、皮膚硬化、網様皮斑、結節性紅斑、陰部潰瘍など)	Α		
3) 精神・神経病変(神経精神ループス, 無菌性髄膜炎, 多発単神経炎など)	Α		
4) 呼吸器病変(胸膜炎, 肺胞出血, 間質性肺炎, 肺高血圧症など)	Α		
5) 心病変(心内膜炎, 心筋炎, 心外膜炎)	Α		
6) 腎病変(ループス腎炎, 強皮症腎, 間質性腎炎など)	Α		
消化器病変(ロ内炎、逆流性食道炎、消化管潰瘍、腹膜炎、気腹症、自己免疫性肝炎,原発性 7) 胆汁性肝硬変など)	Α		
8) 造血器病変(血球減少症、溶血性貧血、血球貪食症候群、血小板減少性紫斑病など)	Α		
9) その他の病変(乾燥性角結膜炎、ブドウ膜炎、唾液腺炎、膠原病に伴う副鼻腔炎・中耳炎など)	A		
Ⅱ. 専門的身体診察			
1. 皮膚・附属器・粘膜の視診, 触診	Α	Α	
2. 血管(血圧の左右差, 動脈拍動蝕知, 血管雑音聴取)	A	A	
3. 関節(圧痛, 腫腫, 発赤, 変形, 可動域)			
3. 関即(圧痛, 脛脛, 光赤, 変形, 可勤域) 4. 筋・軟部組織(筋力、把握痛など)	Α	A	
	Α	Α	
皿. 専門的検査			
1. 免疫血清学的検査(自己抗体以外)(補体、免疫複合体、リンパ球分画など)	Α	Α	
2. 自己抗体	Α	Α	
3. 疾患関連遺伝子に関する検査(特にHLA)	Α	В	
4. 関節穿刺と関節液検査	Α	В	
5. 生検(腎生検, 筋生検, 皮膚生検, 神経生検, リンパ節生検)	Α	С	
6. 関節X線	Α	Α	
7. 特殊な画像診断(関節超音波, MRI(関節, 筋肉など), 唾液腺シンチグラフィ, 骨密度測定など)	Α	В	
8. 免疫抑制治療に伴う感染症に関する検査	Α	Α	
Ⅳ. 治療			
1. 薬物療法			
1) 副腎皮質ステロイド	Α	Α	
2) 免疫抑制薬	Α	В	
3)疾患修飾性抗リウマチ薬	Α	В	
4) 生物学的製剤	Α	В	
5) 非ステロイド性抗炎症薬	Α	A	
6) 肺高血圧症治療薬	A	C	
7) 高尿酸血症、痛風治療薬	A	A	
8) 骨粗鬆症治療薬	A	A	
9) 免疫グロブリン大量静注療法	A	C	
10) その他の治療薬(乾燥性角結膜炎治療薬、唾液分泌促進薬、プロスタグランジン製剤など)	A	В	
2. 血液浄化療法(血漿交換療法, 免疫吸着療法, 白血球除去療法)	A	С	
3. 関節穿刺法, 関節内注入療法	<u> В</u>	C	
3. <b>闵即牙利</b> 法,闵即内注入惊法 4. 理学療法		C	
	Α	_	
5. 生活指導	Α	Α	

膠原病及び類縁疾患	知識	技術·技能	症例
Ⅴ. 疾患 修正案			
1. 関節症状を主とする膠原病・類縁疾患			
1) 関節リウマチ	A		Α
2) 悪性関節リウマチ,Felty 症候群	В		С
3) リウマチ熱	Α		С
4) 成人 Still 病	Α		В
5) リウマチ性多発筋痛症	Α		В
6) 変形性関節症	Α		В
7) 感染性関節炎(細菌性・ウイルス性など)	Α		С
8) 結晶性関節炎(痛風·偽痛風)	Α		Α
9) 強直性脊椎炎	В		С
10) 反応性関節炎	В		С
11) 乾癬性関節炎, 掌蹠膿庖症性関節炎	В		С
2. 全身症状・多臓器症状を主とする膠原病・類縁疾患		<u>,                                      </u>	
1) 全身性エリテマトーデス〈SLE〉	Α		Α
2) 皮膚筋炎, 多発(性)筋炎	Α		В
3) 強皮症, CREST症候群	Α		В
4) オーバーラップ症候群,混合性結合組織病〈MCTD〉	Α		В
5) Sjögren 症候群	Α		В
6) 抗リン脂質抗体症候群〈APS〉	Α		С
7) 血管炎症候群			
①高安動脈炎〈大動脈炎症候群〉	Α		В
②巨細胞性動脈炎<側頭動脈炎>	В		С
③結節性多発動脈炎	Α		С
④顕微鏡的多発血管炎	Α		С
⑤多発血管炎性肉芽腫症〈Wegener肉芽腫症〉	Α		С
⑥好酸球性多発血管炎性肉芽腫症〈Churg-Strauss症候群〉	В		С
⑦クリオグロブリン血管炎	В		С
⑧IgA血管炎〈Schönlein-Henoch 紫斑病, アナフィラクトイド紫斑病〉	Α		С
⑨Behçet 病	Α		В
⑩皮膚白血球破砕性血管炎	В		С
8) アミロイドーシス	A		С
9) IgG4関連疾患	A		C
10) 線維筋痛症	В		C
11) 再発性多発軟骨炎	В		С
12) サルコイドーシス	A		C

	感染症	知識	技術·技能	症例
Ι.	知識			
1.	要因と病態生理			
	1) 疫学	Α		
	2) 感染様式	Α		
	3) 感染経路	Α		
	4) 感染と発症	Α		
	5) 代表的病型	Α		
	6) 特殊な感染症	Α		
	7) バイオテロ	В		
	特殊病態下の感染症	Α		
	関連法規(感染症法にもとづく分類と届け出)	Α		
4.	院内感染防止対策			
	1) 院内感染防止対策の基本事項	A	-	
π.	2) 院内感染防止対策活動	Α		
ш.	専門的身体診察			
	1) 視診	A	A	
	2)医療面接	A	A	
	3) 触診	A	A	
	4) 聴診	A	A	
	5) 打診	A	A	
_	6)重症度判定	Α	Α	
	専門的検査			
1.	微生物学的検査			
	1) 塗抹・検鏡検査	A	A	
	2) 培養検査 3) 血清学的検査	A	A	
	3) 皿用子的快宜 4) 遺伝子学的検査	A	A	
	5)検査結果の判読	A	Α	
	5)快鱼和未切刊就		۸	
2	病理·組織·学的檢查	^	Α	
2.	病理·組織学的検査 1) 細胞診			
2.	1) 細胞診	Α	В	
	1) 細胞診 2) 組織診断			
	1) 細胞診 2) 組織診断 血清診断·遺伝子検査	A A	B B	
	1) 細胞診 2) 組織診断 血清診断・遺伝子検査 1) 抗原検査・抗体検査	A A	B B	
3.	1) 細胞診 2) 組織診断 血清診断・遺伝子検査 1) 抗原検査・抗体検査 2) 遺伝子検査	A A	B B	
3.	1) 細胞診 2) 組織診断 血清診断・遺伝子検査 1) 抗原検査・抗体検査 2) 遺伝子検査 画像診断	A A A	B B A A	
3.	1) 細胞診 2) 組織診断 血清診断・遺伝子検査 1) 抗原検査・抗体検査 2) 遺伝子検査	A A	B B A A A	
3.	1) 細胞診         2) 組織診断         血清診断・遺伝子検査         1) 抗原検査・抗体検査         2) 遺伝子検査         画像診断         1) 画像診断の適応         2) 画像検査の判読	A A A	B B A A	
3.	1) 細胞診 2) 組織診断 血清診断・遺伝子検査 1) 抗原検査・抗体検査 2) 遺伝子検査 画像診断 1) 画像診断の適応 2) 画像検査の判読  治療(抗微生物薬療法・補助療法)・予防	A A A A	B B A A A A	
3.	1) 細胞診 2) 組織診断 血清診断・遺伝子検査 1) 抗原検査・抗体検査 2) 遺伝子検査 画像診断 1) 画像診断の適応 2) 画像検査の判読 <b>治療(抗微生物薬療法・補助療法)・予防</b> 1) 抗微生物薬の知識	A A A	B B A A A	
3.	1) 細胞診 2) 組織診断 血清診断・遺伝子検査 1) 抗原検査・抗体検査 2) 遺伝子検査 画像診断 1) 画像診断の適応 2) 画像検査の判読  治療(抗微生物薬療法・補助療法)・予防	A A A A A	B B A A A A A A	
3.	1) 細胞診 2) 組織診断 血清診断・遺伝子検査 1) 抗原検査・抗体検査 2) 遺伝子検査 画像診断 1) 画像診断の適応 2) 画像検査の判読  治療(抗微生物薬療法・補助療法)・予防 1) 抗微生物薬の知識 2) 抗微生物薬の選択	A A A A A A	B B A A A A A A A A A	
3.	1) 細胞診 2) 組織診断 血清診断・遺伝子検査 1) 抗原検査・抗体検査 2) 遺伝子検査 画像診断 1) 画像診断の適応 2) 画像検査の判読  治療(抗微生物薬療法・補助療法)・予防 1) 抗微生物薬の知識 2) 抗微生物薬の選択 3) 適正な抗微生物薬の使用(TDM含む)	A A A A A A	B B B A A A A A A A A	
3.	1) 細胞診 2) 組織診断 血清診断・遺伝子検査 1) 抗原検査・抗体検査 2) 遺伝子検査 画像診断 1) 画像診断の適応 2) 画像検査の判読 <b>治療(抗微生物薬療法・補助療法)・予防</b> 1) 抗微生物薬の知識 2) 抗微生物薬の選択 3) 適正な抗微生物薬の使用(TDM含む) 4) 治療効果の評価	A A A A A A	B B A A A A A A A	

	感染症	知識	技術·技能	症例
٧.	疾患		<u>'</u>	
1.	ウイルス感染症			
	1) インフルエンザ	Α		Α
	2) 麻疹	Α		В
	3) 風疹	A		В
	4)流行性耳下腺炎	A		В
	5)水痘	A		В
	6)帯状疱疹	A		A
	7) ヒト免疫不全ウイルス〈HIV〉感染症	A		В
	8) サイトメガロウイルス感染症	A		В
	9) 伝染性単核球症(EBウイルス感染症) 10) ノロウイルス感染症	A		В
	リケッチア感染症など	A		Α
2.	1) つつが虫病			-
	2) 日本紅斑熱	Α		C
	2) 日本社成紀 3) 発疹チフス	A B		C
	3) 元をテンス 4) その他のリケッチア感染症	В		C
	4) C の 他 の 5 ク ラ ク テ か	В		C
2	クラミジア・クラミドフィラ・マイコプラズマ感染症	В		- 0
٥.		Α		A
	2) クラミドフィラ・ニューモニエ感染症	A		
	3) クラミドフィラ・シッタシ感染症	A		
	4) マイコプラズマ感染症	A		A
4	細菌感染症			
	1) ブドウ球菌(黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌など)	Α		Α
	2) 連鎖球菌(肺炎球菌、溶血性連鎖球菌など)感染症	A		A
	3) グラム陰性球菌(モラクセラ、淋菌、髄膜炎菌)感染症	A		A
	4) グラム陰性腸内細菌群(大腸菌、肺炎桿菌、セラチアなど)感染症	A		A
	5) インフルエンザ菌感染症	A		A
	- 6) レジオネラ属菌感染症	A		В
	7) ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌群(緑膿菌、アシネトバクターなど)感染症	A		A
	8) 嫌気性菌感染症	A		A
	9) 抗酸菌感染症(結核、非結核性抗酸菌症)	A		Α
5.	真菌感染症			
	1) カンジダ感染症	А		Α
	2) アスペルギルス感染症	A		Α
	3) クリプトコックス感染症	A		В
	4) ニューモシスチス感染症	A		В
	5) 輸入真菌症	В		С
6.	原虫・スピロヘータ感染症など	1		
	1) マラリア	А		С
	2) トキソプラズマ症	Α		С
	3) アメーバ赤痢	Α		С
	4) クリプトスポリジウム	А		С
	5) 梅毒	А		В
	6) ライム病(ボレリア感染症)	А		С
	7) レプトスピラ症(ワイル病)	А		С
	8) 寄生虫疾患	A		В
	9) プリオン病	А		С

救急	知識	技術・技能	症例
I. 知識	<u> </u>	<u> </u>	
1. 救急医療体制と救急情報システム	Α		
2. 救急医療に必要な法律と倫理	Α		
Ⅱ. 専門的身体診察			
1. 重症度と緊急性の判断(トリアージ)	А	Α	
Ⅲ. 治療 *シミュレーション・トレーニングを含む			
1. 一次救命処置			
1) 用手的気道確保	Α	Α	
2) バック・バルブ・マスク換気	Α	Α	
3) 胸骨圧迫心臓マッサージ	Α	Α	
4) 自動体外式除細動器 <aed></aed>	Α	Α	
5) ハイムリック法	Α	В	
2. 二次救命処置			
1) 高度な気道確保	Α		
①気管挿管	Α	Α	
②輪状甲状靭帯穿刺・切開	Α	В	
③気管切開	Α	С	
2) 機械的人工呼吸			
①人工呼吸器の設定	Α	Α	
②非侵襲的陽圧呼吸〈NIPPV〉	Α	Α	
3) マニュアル式除細動器の操作			
①電気ショック(除細動、カルディオバージョン)	Α	Α	
②経皮ペーシング	Α	Α	
4) 心停止のアルゴリズム			
①心室細動・無脈性心室頻拍	Α	Α	
②無脈性電気活動	Α	Α	
③心静止	Α	Α	
④蘇生治療の中止	Α	Α	
5) 薬物療法	Α		
6) 心肺停止の原因検索	Α		
7) 低体温療法	Α	В	
3. JMECC (救急患者への初期対応)	Α	Α	
Ⅳ. 疾患(各論) *救急外来などで診断と管理とを経験する			
1. 心停止	Α		Α
2. ショック			
1)心原性ショック	Α		Α
2) 閉塞性ショック	Α		В
3) 敗血症性ショック	Α		Α
4) アナフィラキシーショック	Α		В
3. 神経救急疾患		,	
1) 急性期脳梗塞	Α		Α
2) 脳出血	Α		Α
3) くも膜下出血	Α		Α
4) TIA	Α		Α
5) てんかん発作	Α		Α
6) 髄膜炎	Α		В

救急	知識	技術・技能	症例
4. 急性呼吸不全	<b>.</b>		
1) ARDS	A		В
2) 気管支喘息発作	A		Α
3) 肺気腫(慢性呼吸不全の急性増悪)	A		Α
4) 市中肺炎	Α		Α
5. 急性心不全			
急性心不全(慢性心不全の急性増悪を含む)	A		Α
6. 急性冠症候群			
1)ST上昇型急性心筋梗塞	A		Α
2)非ST上昇型急性心筋梗塞	A		Α
3) 不安定狭心症	A		Α
7. その他の心大血管疾患			
1) 急性大動脈解離(Stanford A型)	Α		В
2) 急性大動脈解離(Stanford B型)	Α		В
3) 大動脈瘤	A		В
4) 肺血栓塞栓症	A		В
5) 頻脈性緊急症	A		Α
6) 徐脈性緊急症	A		Α
7) 血管迷走神経性失神(神経調整性失神)	A		Α
8. 消化器系救急疾患			
1) 消化管出血			
①食道静脈瘤破裂	A		В
②胃・十二指腸潰瘍	A		Α
③虚血性大腸炎	A		Α
2) 急性腹症	1		
①急性虫垂炎	A		Α
②上腸間膜動脈塞栓症	A		В
③急性化膿性胆管炎	A		В
④絞扼性イレウス	A		В
⑤腸管穿孔性腹膜炎	A		Α
3) その他の消化器疾患			
①感染性腸炎	A		Α
②イレウス(麻痺性、術後性)	A		Α
③急性膵炎	A		В
4) その他	, ,		
①胆石・胆のう炎	A		Α
②大腸憩室炎	A		A
③肝性脳症	A		
9. 産科・婦人科系救急疾患	, ,		
1) 子宮外妊娠破裂	В		В
2) 骨盤内腹膜炎	В		В
2)有盈內肢膜炎 10.腎·泌尿器系救急疾患	0		ט
1) 腎不全			
	Α.		Λ
<u> </u>	A		Α
②腎性腎不全	Α		A
③腎後性腎不全 の、感染症	A		В
2) 感染症			
①急性腎盂腎炎	A		Α .
②急性膀胱炎	A		Α
③急性前立腺炎	Α		В

救急	知識	技術・技能	症例
3) その他	•		
①尿管結石	A		Α
②尿閉	Α		Α
③腎梗塞	A		С
11. 内分泌系救急疾患			
1) 低血糖症	A		Α
2) 高血糖緊急症	Α		Α
3) 甲状腺クリーゼ	A		С
4) 粘液水腫性昏睡	A		С
5) 副腎クリーゼ	В		С
6) アルコール性ケトアシドーシス	A		В
12. 電解質・酸塩基平衡異常	'		
1) 電解質異常			
①高K血症	Α		Α
②低K血症	A		Α
	A		Α
④高Ca血症	A		Α
⑤低Ca血症	A		В
	A		В
2) 酸塩基平衡異常			
①代謝性アシドーシス	Α		Α
②代謝性アルカローシス	A		Α
③呼吸性アシドーシス	A		Α
④呼吸性アルカローシス	A		Α
13. 中毒·環境障害			
1) 環境障害			
①熱中症	Α		Α
②偶発性低体温症	A		Α
2) 中毒			
①一酸化炭素中毒	A		С
②急性医薬品中毒	A		A
③農薬中毒	A		C
④ワルファリンの中和	A		В
3) 異物誤飲	A		В
4) 溺水	A		В